

# 北海道大学総合博物館 ボランティア ニュース

No. 39 2015.12

特別寄稿	
新渡戸稲造と札幌遠友夜学校（第3回） 藤田 正一	1
博物館訪問記	
「北海道博物館」を見学して 久末 進一	5
活動報告	
化石展示リニューアルに向けて 田中 嘉寛	6
僕から見た「平成遠友夜学校」 松田 大徳	7
「木曜植物ボランティア」活動報告 船迫 吉江	8

## 特別寄稿

### 新渡戸稲造と札幌遠友夜学校（第3回）

北海道大学獣医学研究科名誉教授 藤田 正一

前号で、新渡戸的なものを消し去ろうとする動きについて書いた。その流れと軌を一にして着々と進む国家主義への回帰。そして軍備による国防思想。安全保障関連法案と呼ばれる戦争準備関連法案は憲法9条に違反し、これを通すことは「立憲主義を危うくするものである」と言う批判のある中、国会を通過してしまった。一方で、これを機に若者の政治に対する関心にも変化の兆しが生まれた。SNSなどの新しいコミュニケーションツールを使っただけの呼びかけに、組織化されてはいない若者達が、自分の考えでデモに集まると言う現象が起きた。素晴らしいと思った。（「素晴らしい」という言葉の中に、多少の心もとなさと、行動に出た彼らをほめ育てるような気持ちが無くはないが）。人を愛し、国を愛し、国の将来を憂うればこそその国政批判であろう。本当の意味での愛国的行動であると言える。（愛国心を評価する学校が増えているが、このような行動をとる生徒の評価は如何に？）。

#### 新渡戸稲造の愛国心・マトリオティズム

新渡戸稲造は「真の愛国心」と言う文章の中で

「我国には国を愛する人は多くあるが、国を憂う人は甚だしい。しかしてその国を愛するものも盲目的に愛するものがありはせぬかをおそれる」と書いている。今でも愛国心を声高に標榜する人々の中に国を憂いてお上にももの申す人は少ない。なぜか彼らの矛先は弱者に向かう。

新渡戸には盲目的に時の政権を支持し、何かと言うと国防、軍事と結びつく攻撃的な愛国心に対して、国を憂い、国政に過ちがあればそれを正そうとする愛国心（憂国心）を表す良い英語の言葉が無いかと思い悩んでいた時期があった。そんなある時、英国の友人ガレン・M・フィッシャー氏が、matriotism（「マトリオティズム」）という新語を提案し、「母親がわが子を思う折紙つきの気づかいを思えば、patriotism パトリオティズム（愛国心）の伝統的な自己満足の代わりに、マトリオティズムに、あなたが望んでおられるウレイの観念をそわせることも、比較的容易と思えましょう。」と語ってくれた。彼は新渡戸の意をくんで、父性的な、しばしば攻撃的な愛国心・パトリオティズム（パトリ＝パター＝父）に対する母性的な愛国心と言う意味でマトリオティズム（マトリ＝マター＝母）を提

案したのである。約 100 年後の今日、米国で、イラク戦争に派遣されて死亡した兵士の母シンディ・L・M・シーハンが、同様な意味でマトリオティズムと言う言葉を使い、自国の戦争政策を果敢に批判している。彼女がマトリオティズムと言う言葉の発案者と言うことになっているが、実は百年も前に同様の考えでマトリオティズムと言う言葉が造られていたのだ。それも新渡戸の発想によって。

### 内村鑑三の愛国心

新渡戸と二つの J(キリストと日本)のために一生を捧げようと誓った内村鑑三も非戦論を展開し、愛国心の喧伝を舌鋒鋭く批判した。「わが教育制度は愛国心に訴うるその声の極端なりしがゆえに腐敗せり」「日本が大いに必要とするものは、深き、無言の無意識なる愛国心にして、今日の騒々しき愛国心にあらざるなり。」「愛国心はあまりにしばしば『悪漢の最後の拠り所』なり」などの言葉を残している。

### 悪漢は真の愛国者を国賊と呼ぶ

それから 120 年近く後の今日のネットの世界ではこの「最後の拠り所」に巣食う子どもが真の愛国的行動に出た若者に対して「非国民」「国賊」などの中傷を叫んでいる。そういえば、新渡戸も内村も同じ名前を賜った。こう呼ばれることを名誉と思うがよろしいだろう。ひるむ事なかれ。

これが政治離れした若者たちに、自らの将来と国のあり方を考えるきっかけになればいい。彼らの参加が、たとえファッションとしての参加にすぎず、瞬く間に熱が冷め、新たな関心事へとその眼差しを移動させてしまおうとも、歴史の転換点に身を置き、ささやかな抵抗をした記憶が後の彼らの生き方を変えるかもしれない。社会は彼らのような若者がいたことを確実に記憶しているだろう。

### 新渡戸の母校、大丈夫？

社会の記憶と言え、前回、新渡戸的なものを消し去ろうとする動きの一つ、教育基本法改定に関わる伊吹文部科学大臣の発言と北大総合博物館が出した声明についてのべた。このことについて、思いがけなくも、『隠された皇室人脈』と言う本の中

(p133-134) で、著者の園田喜明氏がこんなことを言っているのを発見した。

「伊吹さん、新渡戸の武士道を読んでいないことがバレバレですよ。(中略) 問題なのは教育基本法を真っ先に立って目指そうとしている人が、新渡戸の名前を語ってしまう無神経さにある。新渡戸の名前は禁句だった。なぜなら、新渡戸こそがそれまでの旧教育基本法の育ての親とも言える存在だったからだ。筆者の周りにいる新渡戸ゆかりの人たちはみんな怒っていた。怒りまくっていた。とりわけ新渡戸の母校である札幌農学校を起源にする北海道大学総合博物館、新渡戸が初代学長を務めた東京女子大学、それに新渡戸の愛弟子だった河合道子(河井道)が設立した恵泉女学園では、それぞれ揃って新渡戸の言葉を引きながら教職員達が一斉に改正反対の声を上げていた」。こう書かれると、北大の他の部局からは全くこうした声が上がらない中、総合博物館が思い切って声明を出したことで、ようやく新渡戸の母校としての面目が保たれたような感がある。「新渡戸カレッジ」など、新渡戸とグローバリズムを強調する動きは増えたが、彼の精神は確実に彼の母校から薄れつつある。

意外なことに、園田氏は 2008 年のこの本の中で、新教育基本法は旧教育基本法とあまり差がないと述べているが、前回紹介したように、旧法 10 条と新法 16 条のように、重要部分で、表現こそ一部同じであるが、よく読めば 180 度異なる精神に基づいた法律であることが分かる。園田氏が見落としたごとく、さりげなく重要な変革が進められ、気がつけば、教育に対する政治の干渉が強化され、学問の自由さえ制限されてしまっている現状がここにある。

### 遠友夜学校の教育

さて、遠友夜学校に於ける教育の実践について語ろう。遠友夜学校は 1894 年創設であるから、明治、大正、昭和と激動の 50 年の歴史の中に存在したことになる。時代の変遷の中で、社会の遠友夜学校に対する評価もニーズも変わった。しかし、遠友夜学校の学生教師たちは、創設期からの新渡戸の精神をひたすら貫こうと努力して来た。これ

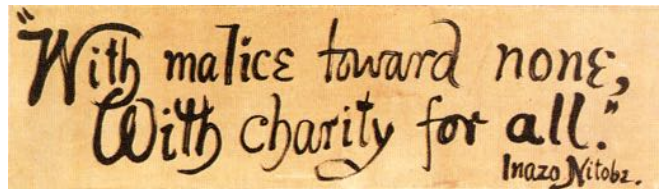
は戦時に於いてもそうであった。遠友夜学校では新渡戸や学生教師たちがどのような教育を目指したのかを見て行こう。

### 校是「リンカーンに学べ」

遠友夜学校の校是は、「リンカーンに学べ」であった。貧しい生い立ちからアメリカ大統領にまでなったあのリンカーンである。クラーク博士は札幌に来る15年前、リンカーンの呼びかけに呼応し、北軍のマサチューセッツ第21歩兵連隊を率いて南北戦争に出征している。この時北軍が大義としたのが、アメリカ独立宣言であった。

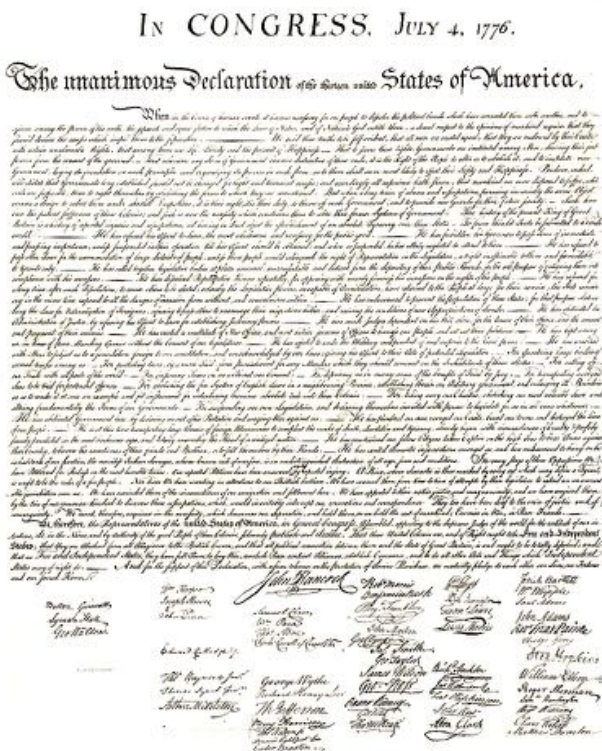
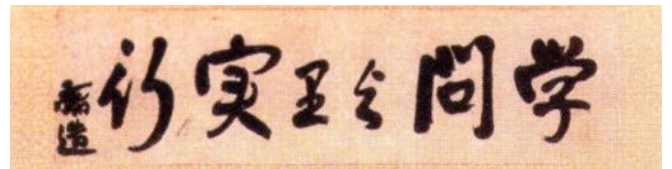
そこには、自由、自主、独立、博愛と人間の平等が謳われていた。リンカーンの「奴隷解放宣言」も、「人民の、人民による、人民のための政治」もこの大義に基づいている。クラーク博士は札幌農学校にアメリカ独立宣言に謳われているような自由と民主主義の思想を伝えた。札幌農学校生徒にとっては、これらの思想とともに、クラークの尊敬するリンカーンも身近な存在となっていた。新渡戸稲造もクラークを介してリンカーンを知り、リンカーンの生国で学び、リンカーンに対する尊敬の念を深めたに違いない。遠友夜学校の生

徒達にリンカーンについて熱く語り、生徒達もこれに答えて「リンコルン会」を組織しリンカーンについて学んだ。新渡戸はリンカーンの言葉、“With malice toward none, With charity for all.” 「何人（なんびと）にも悪意を抱かず、全ての人に慈愛を持って」を揮毫し、遠友夜学校に残している。この博愛の精神は遠友夜学校生徒の遠友魂の一部になっていった。



### 「学問より実行」

新渡戸も、クラーク博士と同じように人格の完成を教育の第一の目標とした。遠友夜学校に於いても新渡戸はそれを説いている。1931（昭和6）年、いまや押しも押されぬ国際人となった新渡戸稲造が遠友夜学校を訪れた。その際に「学問より実行」と言う言葉を揮毫した。以来、この扁額は遠友夜学校の教室に掲げられ、生徒達はこれを見ながら勉強に励んだ。



アメリカの独立宣言

学びの場に何故、「学問のすゝめ」ではなく「学問より実行」なのだろうか。これを見て、「学問より」の「より」は、例えば、「A地点よりB地点へ向かう」と言うときに使われるような、fromの意味だろうと解釈する人もいる。学問を積んだ上で、習得したものを実行に移しなさいと言う意味であると。確かに、そう解釈しても意味としては大きくずれることはないだろう。実際、新渡戸はそのような生き方をした人であった。しかし、この時の新渡戸の真意はやはり、「学問よりも実行」と言う意味であると考えられる。と言うのは、この時に生徒達に下のようなお話をしているからである。

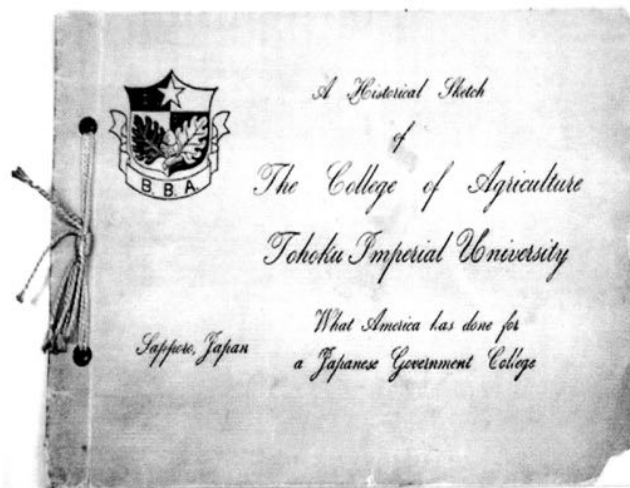
「教育はものをおぼえることよりも、立派な人だとされる方が、後々の成功も確かだ。現に、私の家で沢山の人を使っているが、御飯炊きのばあやがいる。この人は四十いくつで、広島のとんぼに育ち、百姓の家に早く嫁ぎ、朝と無く昼と無く働き、本を読む余暇がなかったので、字もかけず、家に来てはじめて字をおぼえた。新聞に手習いして、三年で手紙が書けるようになった。しかし、このばあさんは、台所にいても暗闇の太陽のようで、ニコニコして何をしていても有り難い有り難いと言う。どんなものを食べても、有り難い有り難いと言っている。これは、自分が作るからではなく、もし、書生が文句でも言うと、「こんなものでも食べられぬ人がある。有り難い。」と言うから、書生達も、しゃくに触ることがあっても、このばあさんの前では黙っている。・・・で、若い女も、「あのばあやのために家がどれほど良く言っているか分からない。」という。これは、真の人間になっているのである。学問とはつまり、このような人になることを目的とする。」（さっぼろ文庫 18 『遠友夜学校』）

貧しい子供たちを前にして、普通なら、「貧困から抜け出し、立身出世出来るように、学問をきなさい」と言うだろう。でも、新渡戸の場合は違った。「人格の完成が第一である。人格の完成のために学問せよ」と説いているのだ。それは、彼の母校・札幌農学校流の教育観があったからである。

### クラーク精神の影響

そう、札幌農学校／北大では、クラーク博士の別れの言葉、「青年よ大志を抱け」の真意を次のように解釈していた：“Boys, be Ambitious!” Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for knowledge, for righteousness, and for the uplift of your people. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be. This was the message of William Smith Clark.

「青年よ大志を抱け、金銭や私利私欲や、人が名声と呼ぶようなはかないものに対してではなく、知識や正義や人々の向上のために大志を抱け。そ



【東北帝国大学農科大学略史-アメリカが日本の大学に遺したもの】1915年、サンフランシスコ万国博覧会にて配布したもの。当時、札幌農学校は東北帝国大学に組込まれていた。

して、人としてのあるべき究極の姿に到達できるように、青年よ志を抱け。これがクラーク博士のメッセージである。」（1915年、サンフランシスコ万国博覧会のために北大が準備した小冊子の中に書かれてある）。

知識や正義への献身、社会への奉仕、人格の完成のために大志を抱けと言う、まさに、Gentlemenが抱くべき A Lofty Ambition（高邁なる志＝クラーク博士が札幌農学校開校式辞の中で述べた）である。当時の青年の生き方の指針とされていた「立身出世」では無い、新たな青年の生き方の指針を示したのだった。

1931（昭和6）年5月、新渡戸稲造が札幌遠友夜学校を訪れた日の前日、彼は北大に於いて講演をしている。その時、彼が語った教訓は次のようなものであった：「人生の目的は地位や名誉や富を得ることではなく、心豊かな人間として完成するにある」（昭和6年5月18日 北大中央講堂にて鳥居清治氏記録）まさに、「青年よ大志を抱け」の北大の解釈そのものである。

このように札幌農学校の精神が新渡戸稲造の人間形成に影響し、更にそれが札幌農学校の学生たち、そして、札幌遠友夜学校の生徒たちへとリレーされて行ったのだった。＜続く＞

## 博物館訪問記

## 「北海道博物館」を見学して

図書ボランティア 久末 進一



北海道博物館 前庭

「北海道新幹線」時代の開幕をひかえて、国内外の来訪者を迎え、我が北海道の価値と魅力をいかに紹介すべきか。「北海道開拓記念館」が「アイヌ民族文化センター」との統合によるリニューアルで生まれ変わった「北海道博物館」が、その答を示すかもしれない。

期待に胸はずませ、初秋の野幌森林公園の丘へ向かったが、見学団一行をまず迎えてくれたのは青空にレンガ色映える知の殿堂の前庭。息をのむほどの途方もないこの自然空間の広がりこそが、思えば北の大地の広さ、豊かさであり、その脅威に臆せず、開拓に挑んだ人々の勇氣ある精神をしのばせる象徴だった。

そして、実物資料に物語らせる実証的な展示構成は、開拓時代の息吹きを蘇らせ、臨場感にあふれて、同じ地に生きる道民の共感を呼んで北海道博物館史のエポックとなった。それはひとえにこの地の風土と空間の理解にもとづく。その広がりはおおらかにゆったりと、あらたな館内と常設展示全体にゆき渡っていた。

視野が広がった。日本列島の中の北海道は北東アジアの北海道でもあり、古代から近現代に至る道史は世界史まで拡大、収斂する。その歴史の時系列を軸に、自然、考古、民族、民俗、生活と、多彩な研究領域が共鳴し、変遷、なりたち、出来

事、暮らしを綴る。総花的であっても、蓄積された学術成果による解説の底が深い。新発見で常識が覆える興奮が随所にうまれる。

導線の強制がなくなった。ワンフロアで見学者の感性と関心のおもむくまま移動できるが、迷子にならない。時代とテーマのつなぎ目、変わり目がスムーズに設定されているから、異郷のアイヌ世界にいたはずが、気がつけば松前藩時代に立っていたりする。こののびやかさは、学識の海原を自由に泳ぐ楽しさに似ていると思う。

これは時間や行動に制約されがちな各種団体、グループ、修学旅行見学等への現実的な対応サービスでもあろうか。

我が北海道がどんな世界なのか。その立ち位置と存在理由を再認識できる、総合学習と観光を融合する啓蒙の場へ、大きく進化を遂げていた。これも記念館時代からの40年以上に及ぶ北海道の近代博物館経営の実績と、先駆的展示を開拓してきた苦闘あつてのたまものである。充実した収蔵庫と研究機関を擁し、内容、規模共に北海道を代表するモデル博物館であることが体感できた。

百聞一見に如かず。ぜひ、一見をお勧めする。

生まれ変わった「北海道博物館」常設展示を楽しみました  
2015年8月29日

(所在地・札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2)

## 活動報告

## 化石展示リニューアルに向けて トウベツアカマツセイウチが展示になるまで

化石・展示解説ボランティア 田中 嘉寛(沼田町化石館・学芸員)

2015年8月、新しい北海道の化石が世界にデビューしました。その化石、トウベツアカマツセイウチは2016年7月にリニューアルされる北海道大学総合博物館の展示として正式にお披露目になる日を待っています。ここでは化石がデビューするまで（論文になるまで）どのようなことがあったかをご紹介します。

*Archaeodobenus akamatsui* (アルケオドベヌスアカマツイ；トウベツアカマツセイウチ) は Archaeo (原始的な) odobenus (セイウチ) という名前の通り、古いタイプのセイウチで長いキバを持っていません(右図)。それではなぜセイウチだとわかるのでしょうか？それは、大脳と小脳を分ける骨が下方に押し付けられている特徴があるからです。長いキバがセイウチの特徴だと思っていた私は、生き物の分類は面白い、と感じました。

1977年、当別町を流れる当別川にて、大型化石が含まれる岩塊が発見・収集されました。1998年、セイウチの専門家である甲能直樹国立科学博物館研究主幹によって頭蓋を含むセイウチ化石である可能性が示唆され、1999年から国立科学博物館にて化石を岩から取り出すクリーニングが始まりました。私がクリーニングを始めたのは2005年からで、かなり硬い石をタガネとハンマーで小さく切り取っていき、エアスクライバーという微細振動を出せる針で細かいところまで石を取り除きました。

その後、北海道大学総合博物館に標本を移して研究を始めました。小林快次准教授(当時、助教)に執筆や研究手法の指導を受けました。甲能直樹博士には共著者として専門的な部分を議論やチェックをしていただきました。

研究は論文として公開して、一応の終わりになります。しかし、後からまた新しい疑問や研究が生まれてきます。それは「果てしない物語 The Neverending Story」です。

研究は生モノでもあります。私たちが原稿を書いている間に、新しいセイウチの論文が発表され



トウベツアカマツセイウチ *Archaeodobenus akamatsui* の復元画。Tanaka, Y. and Kohno, N., 2015 より引用。新村龍也学芸員(足寄動物化石博物館)作。

ました。その新しい知見を取り込んで、原稿を書き直し、やっと学術誌に投稿できました。論文は査読という、研究者によるチェックを受けます。修正をして、学術誌の編集者から「合格」をもらおうとやっと出版されます。*Archaeodobenus akamatsui* は PLOS ONE というアメリカの学術誌から出版されました。オープンアクセスという公開形態で、ネット上で誰もが自由に読むことができます。皆さんも興味がありましたら、*Archaeodobenus akamatsui* で検索してください。

図は *Archaeodobenus akamatsui* の復元画で、3Dで作られています。足寄動物化石博物館の新村龍也学芸員と共同で作製しました。この絵ができるまでには別のストーリーがあります。いつか、私の勤めている沼田町化石館で「復元の科学」展を開催し、その中で語りたと思います。

論文が出版され、世界デビューを果たした *Archaeodobenus akamatsui* ですが、7月の北海道大学総合博物館のリニューアルオープンで正式にお披露目です。苦勞して産んだ「我が子」を、展示室で皆さんに見て頂きたいと思うのが親心です。展示室では新村さんの作った美しい復元画と、ここでは全く触れられなかったセイウチの進化ストーリーを交えてご紹介したいと思いますので、ご期待ください。

## 僕から見た「平成遠友夜学校」

平成遠友夜学校教頭 松田 大徳(北海道大学理学部数学科 1年)

自分が何故ここに参加するようになったのか、まずは士別から千歳に引っ越した時の話をしましょう。士別市は人口約2万人の小さな町で、塾もそんなにありませんでした。自分もそこのある小学校にいたときは全く勉強しなかった記憶があります。そして小学2年生の秋に千歳市に引っ越しました。千歳の小学校に通い始めた時にびっくりしたことがいくつかあります。1つ目は、周りに塾に通っている人が多かったことです。周りの環境がとても違いました。2つ目は、地域によって授業の進度が全然違うことです。例えば、算数では士別では掛け算に入り始めたところでしたが、千歳ではとっくに終わっていたのです。また、士別ではなかったものとして、中学受験用の塾がありました。

この経験から自分が衝撃を受けたことは、地域によって全然学習環境が違うということでした。ただ、この時はこれが大きな問題を起こしているとは夢にも思いませんでした。この学習環境の違いが問題だと気が付いたのは、登別で受験勉強をしていた時でした。

自分はずっと登別の「登別<sup>あけび</sup>明日中等教育学校」に行こうとしていました。しかし、倍率が高くなりそうだということと学習環境は札幌のほうが整っているということで札幌の私立中学校に志望を変更しました。そこで本屋に行って早速参考書などを買おうとしたら本屋に中学受験用の参考書が全然ありませんでした。今思うに、登別の小学校の児童が札幌の私立中を受けるということはめったになく、すぐ近くにある中学校に行く人が大半だったので中学受験の参考書の需要はほとんどなかったのでしょうか。この時はかなり困りました。はるばる札幌の紀伊国屋書店まで買いに行ったことを覚えています。また、塾も「登別明日中学対策コース」みたいなのがあったのは覚えています。札幌の難関私立中対策コースみたいなのはありませんでした。自分は何とか中学受験を突破し



最近の学習支援の様子(中央が筆者)

ましたが、この時に初めて、自分みたいに小さな町に住む人はこれだけで不利になるということが分かりました。やはり進路については、経験者に会って話を聞くのが一番ですが、田舎ではこのような機会はめったにありませんし、進路説明会みたいなものも田舎では殆どなく相談相手もどこにもいませんでした。そんな地域では進路の幅を広げる機会がなく、自分のしたいことを見つけられずに終わる人も少なくありません。

以上のようなことを自分は体験してきたのですが、現状では地域による学力格差があるのは当然だと思います。進路の選択肢も田舎になればなるほど少ないということも納得できます。

そして、もう一つ思ったことは地域による学力格差と所得による学力格差は似ているということです。想像するに難くないことですが、所得が低ければ、それだけ使えるサービスも減ります。教育も同じように、所得が低いと塾や予備校に行けないですし、家庭教師も難しいでしょう。実際に、高校に通う交通費を払うことすら無理な家庭もあります。自分の家はそこまでひどくはありませんでしたが、それでも自分も苦勞したことがありますので、何とか力になってあげたいという理由で自分はこの遠友夜学校に参加しています。

最後に、もしこれを読んでくれた学生さんがいたならば是非この遠友夜学校に参加してほしいのです。よろしくお願いします。最後までこの記事に付き合ってくださいありがとうございました。

## 「木曜植物ボランティア」活動報告

植物ボランティア 船迫 吉江

約5年半前に北方山草会会員4名(松井、吉中、星野、船迫)により結成され、朝から終日作業しております。

これまでの主な作業は

(1) N3 14室において、先人が樺太、千島、満州で採集したものを含む15万点に及ぶ未整理標本を虫と闘いながら標本として使えるようにした事、この作業はこの先も高橋先生のご指導のもとで続きます。

(2) 東北の震災で海水につかった陸前高田市の博物館の標本を水で洗って塩分を取り、黴をアルコールで除去した後、乾燥機で乾燥させて標本として再生した事、この作業は震災が教えてくれた貴重な体験でした。

(3) 平成25年春、4月16日から5月12日の約一か月間、企画展「北のすみれ」が北大総合博物館で開催されました。これは北大植物標本庫収蔵のタイプ標本によって作画した樺太、千島のすみれと北海道のすみれを展示したものです。当時、松井さんはとてもご壮健で、開会のセレモニーでは北方山草会を代表してご挨拶をしてくださいました。そして、展示の準備、期間中の展示当番などご協力頂きました。

(4) 当館改装に先立ち、標本庫内に収蔵されている標本(北海道、樺太、千島)の学名、和名などを全部書き出し、それをもとにして新しい植



前列左が筆者、後列右端が松井さん  
(北のすみれ展開催を記念して)

物体系による学名、和名のカバーのシール作りとカバーにシールを貼る作業に奮闘しています。

そんな時に、今まで植物のことについて多くのことを教えてくださった松井さんが闘病中でしたが、平成27年9月12日治療の甲斐もなく御逝去されました。最後に「北海道維管束植物目録」を出版されたことが唯一の救いです。この本はこれからも多くの方々に活用されるでしょう。松井さんが不在となった悲しみは深く、只々ご冥福をお祈りするばかりです。

現在、応援に駆け付けてくださった児玉さん、田端さんのお力を借りてカバーのシール貼りに励んでいます。これからも体調に心して、出来る限り力を尽くしたいと思っております。

北海道大学総合博物館 ボランティア ニュース No. 39

- ◆編集人：北海道大学総合博物館ボランティアの会(編集委員：星野、今井、大山、児玉、沼田、山岸)
- ◆発行人：在田一則
- ◆発行日：2015年12月1日
- ◆連絡先：〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 Tel: 011-706-2658
- ◆ボランティア ニュースは、博物館のホームページからもご覧になれます。 <http://www.museum.hokudai.ac.jp>